

基本理念	一人ひとりを大切に、心豊かに、たくましく生きる子どもを育成する	
	あいさつをする子	・コミュニケーションのきっかけとなるように気持ちの良いあいさつを行う。 ・あいさつを通じて仲間と親しみをもちながら、遊びの中で協同性や道徳心を養う。
	話を聞く子	・経験したことや考えたことを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりして、言葉による伝え合いができるようになる。
	じっくり遊ぶ子	・身近な事象に積極的に関わりながら、物の性質や仕組み等を感じたり気付いたりして、考えたり、予想したり、工夫したりする等自分なりに多様な取り組み方をする。 ・自然に触れる体験を通じて自然の変化等を感じ取り、好奇心や探求心をもって考え、言葉で表現しながら身近な事象への関心が高められるようになる。
めざす子ども像	①一人ひとりの居場所作りをし、個に寄り添った教育・保育を行いなから、子どもとの信頼関係を築く。 ②情報公開をし、説明責任を果たしたりする等、きめ細かく丁寧な保護者に伝える。 ③保育の専門性や技能を高め、保育教諭としての資質向上を図る。 ④園小合同研修を行い、子どもの学びについてお互いの理解を深める。 ⑤送迎時や活動時の安全管理の徹底等、個々の危機管理意識を高める。	

自己評価結果(達成状況) [A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない]

評価の観点	評価項目(取組内容)	取り組み(達成)の状況	達成状況	改善の方策(今後について)
園運営	○職員の資質向上 ・計画性のある研修の実施	・人権擁護のためのセルフチェックリストを活用し人権に対する意識を高める研修を行った。振り返りを行い、自身の保育向上の為に手立てを考えたり。 ・「小さくても意義をもったひとりの人間である」という言葉を繰り返し伝えたり。 ・職員会議や園内研修の持ち方を工夫し、時間短縮や対話重視の研修に重点をおいて行なった。交代制にして全職員が職員会議に参加できるようにした。指導主事派遣研修において全職員が付箋で「明日に繋がる保育」を伝え合うようにした。 ・時間内に勤務が終わるように働き方を意識するよう声掛けをした。 ・研修報告やミニトークを掲示し職員が周知できるようにした。 ・資質向上や研修に対しての意識が高まり(89%)、そこでの学びを実践した。(発表会において目指す表現とは何か、応答的に関わるとは等) ・オンライン研修を利用し日割しながら全職員が講演を聞く機会を増やした。 ・経営運営への関心度が少し低い。(78%)	B	・セルフチェックリスト後の振り返りで、自らの保育に起こった変化について客観的に捉え、自身の資質向上に繋がっていることを感じた。又良くないと思う対応を減らしていく為にどうするかを自分なりに考えた。今後も振り返りを継続する。 ・職員会議で園の事例からミニトークやKPT研修を行い、同僚性の構築が感じられ、よい傾向が見られた。又研修をまとめた積極的に発表したりしてプレゼン力も身に付いてきたので今後も継続する。 ・水曜は残業をせずに帰宅する習慣がついてきたので、今後も声掛けを行う。 ・エピソード記録は子どもの言動の整理ができ、学びを見取った様々な意見に触れたりできるので、今後も継続する。 ・できるだけ全職員が研修に参加できるような態勢を整える。 ・次年度、事務員による経営面の研修を計画する。又節約節減を繰り返し呼びかける。
	○組織体制の充実			
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省 ○発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	・子の発想から遊びに繋がりや広がりが見られるように、必要な材料や道具、場所を準備するようにした。現在わくわくタイムの環境構成を模索している。 ・一人ひとりの特性や発達の課題を把握したり、言動や仕草から読み取りを行い子の思いに寄り添ったりする等幼児理解に努めた。(100%) ・食育活動を積極的にし、子と一緒に作物を育てたり収穫した野菜を使ったクッキングをしたりして五感で美味しさを味わった。(100%) ・異年齢で触れ合う時間や活動を意識的に持つようにし、そこでの学びを見取った。 ・暑さ対策の為、運動会を10月開催し、低年齢児の演技を見直した。 ・指導計画作成の時には、援助の意図を明確に書くようにした。 ・各年齢別に年間カリキュラムの1期ごとに子どもたちの活動を振り返った。	B	・じっくり遊ぶ子を意識し、主体性を重視した遊びが展開するよう環境整備を行っており、園内外で遊びが繋がるよう、遊び姿を観察しながら素材や道具、場所、空間等を検討する。 ・指導計画の意図と行為を明確にし、何をねらいとしてこの活動をするのかを意識する為、今後も継続して立案する。又振り返りが活かされるよう、繋がりを意識する。 ・保育者は正解を教えるのではなく子どもに気付かせるような声掛けをするよう再三伝える。 ・運動会を10月開催にしたことでプール遊び期間を9月に入ってから2週間延長した。少し涼しくなってから園庭で活発に活動できた。但し、秋の行事が集中したので、行事の日程を見直す。 ・1期ごとの振り返りが次年度に活かされるように年間カリキュラムを見直し発達年齢に則したものを作成する。
	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	・よい子ネットを活用し、おすすめしじややおやう、親子遊ぼうカードを配信した。 ・保護者の送迎の際に積極的に声かけをして、子育ての悩みや困り事の相談を受けた。 ・地域の在宅児に声を掛け、すくすくひろばへの参加を誘った。 ・不参加が続いた家庭には電話をし、近況を尋ねた。 ・すくすくひろばを交流館、児童館、民生委員、自治会に配付し、掲示してもらった。 ・利用者の100%のたに概ね満足していた。 ・季節の製作をしながら遊び場や子育ての情報交換等を行った。又4園合同行事や園行事に参加した。	B	・今年度、在園児の未就園児がよく利用され、賑わった。4園合同行事や園行事にも積極的に参加があったので、今後も内容を充実させ楽しい計画を立案していく。 ・又利用者にも希望を聞き、今後取り入れていく。 ・未就園児が在園児の保護者には参加を誘ったり、声掛けをしたりする等、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心がけていく。 ・今後も地域にすくすくひろばを配付したり掲示したりする等協力を依頼する。 ・在園児の成長との交流も積極的にやっていく。
安全・健康管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施	・毎月避難訓練と一緒に安全点検を行った。11月に通報・消火訓練を行い消防署員から指導を受けた。3月には職員のみで通報・消火訓練を行った。(年2回)又園児は煙に見えてパニックの下を避難する体験をした。 ・ヒヤリハットは全職員が目を通すよう確認表を作成した。又園内外の危険箇所を掲示し、改善点と共に全職員が周知できるようにした。 ・12月に園内で防犯訓練を行い、合言葉やいかにのすしについて確認した。 ・年1回警察や指導員から交通安全指導を受けた。今年度トラック協会主催の交通安全教室に5歳児が参加した。 ・よい子ネットでも感染症状況を毎日配信した。又保健だよりを配付したり看護士による園児への保健指導や職員に向けて嘔吐物の始末等の講話を行った。 ・嘱託医による年2回園児健康診断及び年1回歯科検診を行った。 ・AED研修を行い、乳児・幼児の心肺蘇生法を学んだ。 ・園児の安全の確保及び権利の保護を図ることを目的として園内外に防犯カメラ16台を設置した。 ・園は安心できる環境を作っていると評価された。(100%)	B	・園舎内外の地図を作成し、全職員が危険箇所を周知できるように掲示し、ヒヤリハットがあった箇所は黒で、対策は赤で大きく記載した。今後も継続して行い、全職員が意識できるようにする。 ・今後も定期的に実地訓練や講習を受ける等防犯訓練やAED研修を行う。 ・園内の具体的な例を上げ、どんな危険があるかを予知したり、保育者の立ち位置を考えたりする等KPT研修を定期的に行い、危機管理意識を高める。又確実な点呼を意識する。 ・水遊びプール遊びが始まる前には事前研修を行い、適切に監視を行う。 ・毎月避難訓練では、避難の行動がとれるよう、様々な場面や時間を想定して立案する。又二次避難の際、実際に建物の中へ避難誘導も行う。 ・月1回安全点検で不備があった箇所は早急に修理を行う。 ・防犯カメラは録画のみとし、設置目的以外には使用せず。又第三者への提供は基本的にはしない。個人情報の保護には細心の注意を払う。ケガした場合、園児の行動確認の時に使用する。 ・半年に1回ポータブル電源の充電を確認し、必要に応じて充電する。
	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○適切な支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・年3回巡回相談で心理士から援助方法について指導助言を受けた。 ・定期的に家児相へ要支援家庭園児の様子を伝えたり訪問を受けた。 ・学期ごとに個別支援計画を立案し、保護者に同意を求めた。サポートファイルを作成し小学校へも丁寧に引継いだ。 ・療育に通う園児や医療的ケア児は、専門機関と支援会議を設け連携を図った。 ・教育委員会主催の特別支援教育研修や市保健部の特別支援教育部会に出席し専門知識を高めた。 ・要支援児の個々の発達を理解し個々のニーズに寄り添った支援をした。(100%)	B	・個々に合った支援を行っていく上で、支援方法や支援内容を検討したり相談したりできるよう、特別支援委員会を充実させる。 ・今後も送迎の際や連絡ノート等で園の様子や支援内容、又その後の行動の変化等をきめ細やかに保護者に伝えて信頼関係を築く。又必要に応じて相談を行う。 ・専門機関との支援会議では保護者同席の元、現在の様子を伝え合い、双方が共通理解して支援を行えるよう、今後も継続する。 ・医療ケア児については、多面から療育へつながる為、市を超えた連携が必要になっていくことを市や県に伝え、今後就学に向けて、保護者の意向を尋ねながら学校見学を行う。又本児が成長し現在の部屋が狭くなった為、別部屋で保育する。
家庭・地域	○信頼される園作り ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進	・毎日よい子ネットで園児の活動内容を伝え、意図、感染状況、登降等情報発信に努めた結果、100%の保護者に満足していただいた。(2月時点:378件配信)今年度からクラスだより、給食献立表、給食紹介も配信した。 ・行事後、相互で園児の成長を喜び合えるように保護者からの感想を配信した。 ・登降の際には、気持ちの良い挨拶を心がけ積極的な会話から話しやすい雰囲気作りを心掛け、相談しやすい園を目指した。(95%) ・ケガ、トラブル時は、直接保護者に丁寧に経過を説明して謝罪した。 ・年2回個別相談を行った。又必要に応じて時間を作って対応した。 ・5歳児と11の2年間のかけはしりプログラムを作成し学びを視覚化した。 ・園小職員で合同研修会を開き、子どもの実態から一緒に手立ての方法を考えたり。又大石講師の講演を聞き、登着についての学びを深めた。 ・5歳児保護者に向けて南小校長による講話を行った。 ・5歳児は年5回交流を行い、そこでの経験を遊びに繋げた。又南小ふれあいマラソンに参加した。登校練習は年5回行い、1回目に校内見学、5回目に体験入園をした。 ・2月には5名ずつ学校チャレンジャーを行った。小学校との連携についてはほぼ100%の保護者が取り組みの様子を周知し理解した。 ・地域事業及び南小校運営協議会に参加した。(南小マルシェ、秋の文化作品展) ・さつまいも苗植えや収穫、焼き芋大会等を地域住民と一緒にした。 ・高齢者施設に年1回訪問した。感染予防の為施設内には入らず、作品をプレゼントし写真撮影を行った。 ・人形劇観劇、音楽コンサート、4・5歳児対象にL40博士来園等定期的にイベントを行った。おはなし会は3・4・5歳児が年齢別に年間行った。	A	・よい子ネットは毎日1件以上の配信を行った。園を「見える化」することが定着してきた。園の方針や遊びの意図を伝えることで幼児教育を理解する糸口になった保護者の安心感に繋がったりと考えるので、わかりやすい文章で今後もバリエーション配信し、クラスだより等の配信も継続する。 ・「相談しやすい園づくり」を目指し、積極的な挨拶や会話を行いながら保護者が悩みを話しやすい空気感を作る。又早期発見で他機関に連携が必要な場合は、迅速に対応する。 ・今後も先ず一報を入れ丁寧な説明を行ったり謝罪したりする等、保護者に誠意を見せて対応する。 ・小学校との交流活動や合同行事等で親しみを感じている園児が多いので、園小連絡会で調整し、今後も計画する。 ・小1プロブレムを低くする為、少人数でゆっくり学校体験を行う試みを改善しながら継続する。 ・かけはしりプログラムの作成により、幼児教育の無自覚な学びが小学校教育での自覚的な学びへの繋がりが視覚化されたので、今後合同研修会で学びを行う。又必要に応じて見直しを図る。 ・今後も地域事業や学校運営協議会に参加し、共に地域の子どもについて協議する。 ・今年度地域住民とさつまいも交流ができたので、今後も継続する。 ・人形劇観劇、L40博士、音楽コンサート等、お楽しみイベントを計画していく。おはなし会は年齢別に回数や時期を見直し継続する。 ・今後も地域に根ざした園づくりを推進する為、地域住民に積極的に挨拶をしたり会話をしたりして交流を深める。
	○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり			

こども園関係者評価(こども園関係者評価委員会より)

・よい子ネットでしっかり発信しているから保護者は安心で、園小連携も多くなが理解しているのだと思う。A評価で良いと思う。・連絡帳の件については、対応に学びがあったのではないが、園が基本が妥当である。記録に残しておく。・生活習慣や食生活を園生にしている家庭が多いのではないが、朝ごはんの状況はどうか。・学習に向けてしっかり体力をつけていくことが大事である。・小さな時から感覚刺激を十分に満たして欲しい。・駐車場で見守る子を見守るに話しかけたり、指示器を出さずに入ってきたりして危ない事がある。・交流館入口には防犯カメラがある。・延長保育時に迎えに来てもらえないことがある。・すくすくひろばは、70件配付しているがなかなか成果がない。・新1年生のこを、よろしく願いたい。

こども園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

・保護者からの苦情は苦情処理記録簿に記載し学びに繋げる。・よい子ネットは園の情報、遊び、教育・保育、登降、クラスだより等多岐にわたって発信しているが今後も継続する。・生活習慣については保健だよりや健康出前教室等で啓発する。・食生活については園と家庭の両輪で進める。・駐車場での保護者のマナーについては、園だよりやよい子ネット等で啓発する。・登園口に呼び出しホンを設置する。・南小と児童理解を行い、園で行っている個々の援助方法や対処方法を伝える。又かけはしりプログラムを元に職員合同研修を進め、必要に応じて改善を図る。・子どもの人権を尊重し最善の利益を考えると共に、0～5歳までの学びの連続性を見据えた教育・保育の充実を図っていく。

令和7年3月4日

